

石川工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	政治・経済
科目基礎情報					
科目番号	20025		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『新政治・経済』（清水書院）				
担当教員	市嶋 聡之				
到達目標					
1. 近現代における政治の基本原理・機構を理解する。 2. 日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解する。 3. 政治の三権分立に関わるシステムを理解する。 4. 現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できる。 5. 国際政治上における日本の役割を十分に把握する。 6. 近現代における経済の基本原理を理解する。 7. 経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解する。 8. 政府の財政と経済の関係性を把握する。 9. 経済の仕組みを把握し、論理的に説明できる。 10. 現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	近現代における政治の基本原理・機構を正確に理解する。		近現代における政治の基本原理・機構を理解する。		近現代における政治の基本原理・機構を理解していない。
評価項目2	日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を正確に理解する。		日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解する。		日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解していない。
評価項目3	政治の三権分立に関わるシステムを正確に理解する。		政治の三権分立に関わるシステムを理解する。		政治の三権分立に関わるシステムを理解していない。
評価項目4	現代日本の政治における影響関係や問題点を正確に説明できる。		現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できる。		現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できない。
評価項目5	国際政治上における日本の役割を十分に把握する。		国際政治上における日本の役割を把握する。		国際政治上における日本の役割を十分に把握していない。
評価項目6	近現代における経済の基本原理を正確に理解する。		近現代における経済の基本原理を理解する。		近現代における経済の基本原理を理解していない。
評価項目7	経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを正確に理解する。		経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解する。		経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解していない。
評価項目8	政府の財政と経済の関係性を正確に把握する。		政府の財政と経済の関係性を把握する。		政府の財政と経済の関係性を把握していない。
評価項目9	経済の仕組みを正確に把握し、論理的に説明できる。		経済の仕組みを把握し、論理的に説明できる。		経済の仕組みを把握せず、論理的に説明できない。
評価項目10	現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について正確に表現できる。		現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できる。		現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できない。
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会への理解を深める必要がある。本授業では、技術者として必要となる政治・経済に関する基礎学力と専門的知識を身につけることを目指す。そして、このことを通じて、幅広い視野を持った技術者として社会や環境に配慮できるような能力を養う。				
授業の進め方・方法	関連科目：地理，倫理，歴史Ⅰ，歴史Ⅱ				
注意点	評価方法・評価基準 期末試験を実施する。 期末試験（100%） 成績の評価基準として50点以上を合格とする。 注意事項と学習上の助言： ・毎回、授業範囲のレジュメ（プリント）を配付する。これが試験の直接的出題根拠となるので紛失しないよう必ず保存すること。 ・レジュメ（プリント）を板書・ノート代わりに使用するので、授業の進行速度は速くなる。				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・民主社会の基本原理	民主社会の基本原理について説明できる	
		2週	民主政治の思想史・世界の政治体制	民主政治の思想史・世界の政治体制について説明できる	
		3週	日本国憲法	日本国憲法について説明できる	
		4週	国会	国会の制度と実態について説明できる	
		5週	内閣・裁判所	内閣・裁判所の制度と実態について説明できる	
		6週	行政の諸問題・地方自治	行政・地方自治の制度と実態について説明できる	
		7週	現代日本政治・国際政治の諸問題	現代の日本政治および国際政治の諸問題について説明できる	
		8週	中間試験解説・経済思想史	経済思想史について説明できる	
		2ndQ	9週	現代経済の仕組み	現代経済の仕組みについて説明できる

		10週	市場原理	市場原理について説明できる
		11週	物価・景気変動	物価・景気変動について説明できる
		12週	財政の仕組み・社会保障制度	財政の仕組み・社会保障制度について説明できる
		13週	金融の仕組み	金融の仕組みについて説明できる
		14週	現代日本経済・国際経済の諸問題	現代日本経済と国際経済の諸問題について説明できる
		15週	前期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3
				目標の実現に向けて計画ができる。	3
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3
				企業には社会的責任があることを認識している。	3
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3

				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合		
	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0